

## 完全右脚ブロックを呈する特発性心室細動の臨床像および心電図所見の検討

相澤義泰<sup>1</sup> 檜村 晋<sup>1</sup> 勝俣良紀<sup>1</sup> 西山崇比古<sup>1</sup>  
木村雄弘<sup>1</sup> 西山信大<sup>1</sup> 谷本陽子<sup>1</sup> 谷本耕司郎<sup>1</sup>  
高月誠司<sup>1</sup> 三田村秀雄<sup>2</sup> 小川 聡<sup>3</sup> 福田恵一<sup>1</sup>

特発性心室細動 (IVF) のなかには Brugada 症候群 (BS) や J 波を伴う IVF (J-IVF) など、それぞれに特徴的な心電図所見を呈する。一方、完全右脚ブロック (CRBBB) は虚血心や不全心に出現した場合を除けば、良性の心電図所見とされてきた。われわれは、CRBBB 以外に異常を認めない IVF 例で VF ストームを呈し、 $\beta$  遮断薬・アミオダロン・鎮静・カテーテルアブレーションが無効であったが、イソプロテレノール・ペプリジルが劇的な効果を示した症例を経験し、本研究会にて報告した。本症例を契機に、多施設共同研究において IVF 症例を集積し、そのなかでの CRBBB の頻度を検討した。その結果、CRBBB は一般健常群に比べて Brugada 症候群が除外された IVF 群でより高頻度に見られ (11.5% vs. 1.37%,  $p = 0.001$ )、心電図では QRS 幅が有意に広がった ( $150 \pm 14$  msec vs.  $139 \pm 10$  msec,  $p = 0.0061$ )。CRBBB は IVF の心電図所見をマスクする可能性があり、① CRBBB を主徴とする IVF、② CRBBB と BS の合併、③ CRBBB と J-IVF の合併の病態がありうるが、①、③を中心に述べる。

**Keywords**

- 完全右脚ブロック
- 特発性心室細動
- 心電図

<sup>1</sup> 慶應義塾大学医学部循環器内科  
(〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35)  
<sup>2</sup> 国家公務員共済組合連合会立川病院  
<sup>3</sup> 国際医療福祉大学三田病院

*Clinical and Electrocardiographic Characteristics of Idiopathic Ventricular Fibrillation Demonstrating Complete Right Bundle Branch Block*  
Yoshiyasu Aizawa, Shin Kashimura, Yoshinori Katsumata, Takahiko Nishiyama, Takehiro Kimura, Nobuhiro Nishiyama, Yoko Tanimoto,  
Koujiro Tanimoto, Seiji Takatsuki, Hideo Mitamura, Satoshi Ogawa, Keiichi Fukuda